

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 11 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26870726

研究課題名(和文)江戸幕府法令の実現過程に関する実証的研究

研究課題名(英文)The study on the realization process of the Edo shogunate laws

研究代表者

小倉 宗(OGURA, Takashi)

関西大学・文学部・准教授

研究者番号：40602107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、江戸幕府法令の実現過程を実証的に解明し、幕府支配の特質や幕藩体制の構造を把握することを目的としたものである。本研究では、史料を幅広く収集・分析し、藩との関係を意識しつつ、制度・実態の両面から、幕府の法令が実現される全体的なあり方とその歴史的展開を明らかにした。また、京都町奉行の法令に関する重要史料を紹介した。さらに、江戸町奉行の法令に関する新著の書評を行った。そして、研究成果を社会に発信するため、一般向けの講演を積極的に実施した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to elucidate the realization process of the Edo shogunate laws, and to grasp the characteristics of the shogunate rule and the structure of the Bakufu regime. In this research, collecting and analyzing a wide range of historical materials, conscious of the relationship with feudal clans, from both sides of the system and reality, I clarified the whole way of realizing the shogunate laws and its historical development. In addition, I transcribed the important historical documents concerning laws of Kyoto-Machibugyo, and made a review of the new book on laws of Edo-Machibugyo. And, in order to disseminate the research results to society, I lectured actively for the public.

研究分野：人文学(史学・日本史)、社会科学(法学・基礎法学)

キーワード：幕府 法令 裁判 江戸 上方 藩 奉行 代官

1. 研究開始当初の背景

(1) 江戸時代の法令は、幕府や藩が政治的な意思を表示し、政策を実現する最も一般的な手段であり、日本近世史を研究する際の基本史料として利用されてきた。しかし、従来は、法令の内容のみを問題とすることが多く、発給する主体や適用される対象、制定・伝達される過程や実施される状況といった法令の実現過程については、十分な検討がなされてこなかった。また、実現の過程を考慮しないために、江戸のみの法令を全国一律の法令(政策)と誤認するなど、内容の解釈が不適切になることもしばしばみられた。一方、幕府法令の実現過程に関する研究としては、服藤弘司氏と藤井讓治氏の貴重な成果があるが、両氏の仕事でも、江戸以外の遠国に勤務する幕府役人や藩への伝達が検討されないこと、特定の時期・内容の事例のみが対象とされたことなど、いまだ説明すべき点が残されている。それゆえ、幕府法令が実現されるあり方を総合的に理解するためには、江戸のみならず、上方をはじめとする遠国の幕府役人・役所や、親藩・譜代・外様にわたる諸藩を対象に含め、広汎な時期と内容の事例を収集・分析することが必要である。

(2) 研究代表者はこれまで、関東とならぶ拠点地域であった上方を主なフィールドとして、幕府の支配(政治・法・軍事)とその機構に関する研究を進めてきた。その際、幕府の法令は、それ自体を研究の対象とするのではなく、あくまで上方の支配機構を解明するための手段としたため、とりあげる時期や内容が特定のものとどまっていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、江戸幕府による法令の実現過程を実証的に解明し、法令の側面から幕府支配の特質や幕藩体制の構造を把握することを目的としたものである。その際、幕府とならんで親藩・譜代・外様にわたる諸藩を、また、幕府のなかでも江戸の老中や三奉行のみならず、上方をはじめとする遠国の役人・役所を対象に含め、広汎な時期と内容の事例を分析することにより、幕府法令が実現される全体的なあり方とその歴史的展開を明らかにすることを目指した。

(2) 本研究では、幕府の法令に関する原史料(古文書)のうち未刊行で重要なものについて、学術上の共有財産となるよう翻刻(活字化)・紹介することも目的とした。幕府法令の実現過程がよくわかる良質の史料でありながら、従来あまり知られていないものや、刊行・活用されていないものも多く存在する。それゆえ、各地に残された幕府と藩の史料を幅広く調査・収集し、とくに重要なものを翻刻・紹介することは、地道ではあるが、当該分野の研究を進展させるうえで有意義な作業となる。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、刊行史料と原史料を幅広く調査・収集し、それらを系統的に読み進めることを基本的な作業とする点で、日本史学(日本近世史)や法制史学(日本法制史)のオーソドックスな方法論にもとづくものである。また、法令の内容だけでなく、発給する主体や適用される対象、制定・伝達される過程や実施される状況などに注目し、江戸幕府の法令が実現される過程を具体的に明らかにする点に学術的な特色を有する。

(2) 本研究の成果は、幕府の法令というテーマに深く関わる日本史学と法制史学の二つの分野における学会や研究会で報告するとともに、学術論文(論説、史料紹介等)として順次公表し、それぞれの学問分野における研究の進展と相互の学術的交流に貢献するよう努めた。

(3) 幕府の法令に関する未刊行の重要史料を紹介・活用することは本研究の柱の一つであるが、原史料はくずし字で書かれ、解読には多大な時間と労力を要する。そのため、幕府の史料を調査・解読する専門的な知識・技能と経験を有した研究者や大学院生等の補助を得て、法令(や裁判)に関する幕府の文書や記録を翻刻・校訂する作業を進めた。

4. 研究成果

(1) 2014年11月、本研究の成果を「近世の法」と題する論文にまとめ、『岩波講座日本歴史 第12巻近世3』(大津 透・桜井英治・藤井讓治・吉田 裕・李 成市編、岩波書店)に公表した。ここでは、日本近世(江戸時代)の法について、幕府や藩による法令と裁判をテーマとし、制度・実態の両面から考察した。また、法令と裁判を通して、幕領支配の特質や幕藩体制の構造を把握するよう努めた。なお、この論文は、広汎な時期・内容の事例を分析することにより、幕府の法令が実現される全体的なあり方とその歴史的展開を明らかにしたもので、本研究の中核となる成果である。さらに、この論文の前提となる口頭発表として、2014年9月、名古屋大学で開催された法制史学会中部部会の第73回例会において「法からみた幕藩体制」と題する報告を行い、法令・裁判を切り口として、幕府と藩の関係やその時期的変化に検討を加えた。

(2) 2015年12月、関西大学で開催された関西大学史学・地理学会2015年度大会において「江戸幕府の上方支配機構」と題する報告を行った。ここでは、法令や裁判が実現される過程に注目しつつ、幕府の上方支配とその機構について総合的に検証し、幕府の支配機構に共通する構造や特質、江戸時代における上方の位置などを論じた。また、2

016年11月、東京大学で開催された史学会第114回大会の近世史部会シンポジウム「江戸幕府の地域支配」において「幕府上方支配機構の転換」と題する報告を行った。ここでは、法令の制定・伝達や境界紛争（論所）の裁判、役人間の指揮監督関係などを中心に、17世紀後半～18世紀前半に幕府の上方支配機構が転換する過程とその構造・特質について考察した。

(3) 2015年3月、『徳川幕府全代官人名辞典』（村上直・和泉清司・佐藤孝之・西沢淳男編、東京堂出版）において「今井兼久（宗薫）」「木村勝清（宗右衛門）」「五味豊旨（藤九郎）」「篠山景義（十兵衛）」「平野正貞（藤次郎）」「万年頼治（長十郎）」など、52項目を執筆した。ここでは、幕領支配の現場において法令の伝達や実施を担った幕府の代官のうち、上方に勤務した者を中心とする52名について、それぞれの経歴や活動内容などを詳述した。また、2016年10月、大阪商業大学商業史博物館の平成28年度秋期企画展図録『江戸廻米』に「江戸時代後半の上方における幕府代官と幕領」と題する論文を執筆するとともに、翌11月、同博物館のシンポジウム「江戸時代のコメと納税」において報告を行い、役所と幕領の配置、年貢の徴収や法令の伝達などを中心に、上方の幕府代官と幕領支配について検討した。なお、(2)の研究が、大名である京都所司代や大坂城代、上・中級旗本である京都・大坂町奉行などを主な対象とするのに対し、(3)の研究は、中・下級旗本である代官を対象として、幕府の上方支配とその機構に考察を加えている。

(4) 2016年12月、『関西大学文学論集』第66巻第3号(関西大学文学会)に「明和亥年 御評儀書抜」(一) 明和期の京都町奉行所に関する史料の紹介と分析」と題する論文(史料紹介)を公表した。ここでは、幕府の京都町奉行所における法令(や裁判)に関する未刊行の重要史料として、篠山藩(青山家)古文書に収められる「明和亥年御評儀書抜」を全面的に翻刻し、解説・分析を加えた。なお、この史料は、京都町奉行所における法令の実現過程について重要な内容を含んでおり、(1)の論文「近世の法」でも一部用いている。

(5) 2016年3月、『法制史研究』第65号(法制史学会)に「書評 坂本忠久著『近世江戸の都市法とその構造』」と題する書評を執筆した。ここでは、幕府の江戸町奉行所から出された多様な法令を素材として、江戸における都市法の構造と特質を明らかにし、近世の法や政策のあり方、権力と社会の関係などについて新たな知見を導き出した坂本忠久氏の新著をとりあげ、その概要を紹介するとともに、研究上の意義を指摘し、今後の

展望を述べた。

(6) 一般の方々に興味深く、わかりやすい形で発信することにより、本研究の成果を社会や国民に還元する活動として、2014年11月に羽曳野市立生活文化情報センターで「史料から読む江戸時代の政治と社会 羽曳野を中心に」、12月に京都市生涯学習総合センターで「御触書からみる江戸時代の京都」、2015年10月に大阪大谷大学で「江戸時代の大坂」、2016年4月に和歌山市立博物館で「將軍徳川吉宗の改革政治」、10月に関西大学で「御触書からみる江戸時代の大坂」、12月に茨木市立文化財資料館で「江戸時代の茨木地域における政治と社会 法令と裁判を中心に」と題する講演やシンポジウム報告をそれぞれ行った。いずれも幕府や藩の法令(・裁判)に関する史料を読み解きながら、江戸時代の政治や社会のあり方を探るとともに、現代との歴史的なつながりについて解説した。

5. 主な発表論文等(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

小倉 宗、「明和亥年 御評儀書抜」(一) 明和期の京都町奉行所に関する史料の紹介と分析、関西大学文学論集、査読無、66巻3号、2016年、pp.25-51

小倉 宗、江戸時代後半の上方における幕府代官と幕領、江戸廻米(大阪商業大学商業史博物館)、査読無、2016年、pp.34-43

小倉 宗、書評 坂本忠久著『近世江戸の都市法とその構造』、法制史研究、査読無、65巻、2016年、pp.159-164

小倉 宗、近世の法、岩波講座日本歴史第12巻近世3(岩波書店)、査読無、2014年、pp.173-208

〔学会発表〕(計3件)

小倉 宗、幕府上方支配機構の転換、史学会第114回大会・近世史部会シンポジウム「江戸幕府の地域支配」、2016年11月13日、東京大学(東京)

小倉 宗、江戸幕府の上方支配機構、関西大学史学・地理学会2015年度大会、2015年12月5日、関西大学(大阪)

小倉 宗、法からみた幕藩体制、法制史学会第73回中部部会、2014年9月27日、名古屋大学(愛知)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

〔辞典〕

小倉 宗、青木紀明・稲垣豊章・今井兼久・今井兼隆・今井兼続・今井好親・大岡忠通・大柴直増・甲斐庄正房・亀田三清・川上充成・木村勝正・木村勝清・木村清治・木村勝之・木村惣左衛門・木村勝澄・木村勝時・久下重秀・五味豊旨・斉藤英督・篠山景義・白石島岡・鈴木正義・築山茂左衛門・辻富次郎・豊島勝正・西与一左衛門・萩原友明・長谷川伊兵衛・長谷川正清・長谷川安定・羽田正見・平岡良久・平野正貞・平野友平・平野藤次郎・細田時徳・細田時矩・曲淵昌隆・松波勝安・松村時安・松村時直・松村時長・間宮次信・万年頼治・万年頼旨・森本敬武・守屋正朋・山田直時・山田小右衛門・渡辺博、徳川幕府全代官人名辞典（東京堂出版）、査読無、2015年、計52項目

〔シンポジウム報告〕

小倉 宗、江戸時代後半の上方における幕府代官と幕領、大阪商業大学商業史博物館・平成28年度秋季企画展シンポジウム「江戸時代のコメと納税 幕府領年貢の江戸廻米と納庄屋」、2016年11月19日、大阪商業大学（大阪）

小倉 宗、江戸時代の大坂、大阪大谷大学文学部歴史文化学科公開講座「シンポジウム 蓮如と大坂 本願寺から始まった近世の大坂」、2015年10月31日、大阪大谷大学（大阪）

〔講演〕

小倉 宗、江戸時代の茨木市域における政治と社会 法令と裁判を中心に、茨木市立文化財資料館・第22回郷土史教室「歴史に視る茨木」、2016年12月17日、茨木市立文化財資料館（大阪）

小倉 宗、御触書（おふれがき）からみる江戸時代の大坂、平成28年度関西大学おおさか文化セミナー（後期）「おおさか温故知新」、2016年10月11日、関西大学（大阪）

小倉 宗、将軍徳川吉宗の改革政治、和歌山市立博物館・吉宗将軍就任300年記念特別陳列「徳川吉宗と紀州の名君」特別講演会、2016年4月24日、和歌山市立博物館（和歌山）

小倉 宗、御触書からみる江戸時代の京都、公益財団法人京都市生涯学習振興財団・アスニーセミナー、2014年12月19日、京都市生涯学習総合センター（京都）

小倉 宗、史料から読む江戸時代の政治と社会 羽曳野を中心に、羽曳野市市民人権部市民協働ふれあい課・はびきの市民大学「歴史文化学の世界」、2014年11月13日、羽曳野市立生活文化情報センター（大阪）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小倉 宗（OGURA Takashi）
関西大学・文学部・准教授
研究者番号：40602107

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()